



【青島支店】

「第23回山口銀行杯日本語弁論大会と中国における日本語学習者の現状」について

1. はじめに

2025年11月15日、中国東部に位置する山東省の青島市内にて青島市人民政府外事弁公室、青島市教育局及び山口銀行の共催により、第23回山口銀行杯日本語弁論大会大学生の部の決勝戦が開催されました。今回のアジアニュースでは、山口銀行における日中文化交流事業の一環である、山口銀行杯日本語弁論大会について紹介します。

2. 第23回山口銀行杯日本語弁論大会について

(1) 山口銀行杯日本語弁論大会の歴史

青島市と山口銀行本店が所在する下関市との交流の歴史は古く、1979年に両都市の友好都市協定が締結されました。青島市にとって、下関市は初の海外友好都市との位置付けとなっており、現在も多く交流活动が行われています。また、山口銀行は1985年に青島市内に駐在員事務所として拠点を開設し、1992年に第一回日本語弁論大会を開催しました。そして、現在に至るまで33年の歳月を重ね、



数多くの日本語学習者の学習成果の発表の舞台として続いています。

(2) 大会について

大会の構成は、高校生の部、一般の部、大学生1組(日本語学科3年生、4年生)、大学生2組(日本語学科1年生、2年生)の4部門となっており、部門ごとに予選を実施します。決勝大会では各部門複数のスピーチテーマが大会開催の10日前に知らされ、各々その中から1つを選択し、3分間のスピーチを行った後、2回の質疑応答を行います。



また、今大会開催に際し、山口フィナンシャルグループの棕梨社長は、「優勝された発表者を始め皆さんのスピーチを拝聴し、参加者の日本語レベルが非常に高いことに驚かされるとともに、夢多き若い学生達の多大な努力にとっても感動しました。日中両国がこのような経済交流に加え、友好関係を発展させ、相互理解をより深めるためには、お互いの言葉を理解することが何よりも重要であると考えます。今回で23回を数えます本大会が、青島において日本語を学習される方々の励みになり、日中友好の懸け橋となることを願ってやみません。」と参加者に言葉を寄せました。



3. 中国における日本語学習者の現在

(1) 世界で最も多い日本語学習者

国際交流基金が公表している『2024年 海外日本語教育機関調査』によると、2024年時点における、中国国内の日本語学習者は1,019,197人、日本語教師は、21,743人といずれも世界最多となっています。

最近の傾向として、中学・高校の段階から日本語学習を始める学生が増えています。中国では毎年6月に「高考」という中国全土統一入試が

行われ、外国語科目として英語、日本語、そしてロシア語が選択できる中、幼少期から日本のアニメや漫画に触れる機会が多いこともあり、日本語を学ぶことに抵抗が無い学生が、高校の段階で第二外国語を日本語に変えて勉強している人が増加しているそうです。

また、中国国内における日本語教育の環境も良化しています。以前の中国では、日系企業の駐在員が、退職後にボランティアで日本語の先生をすることも多く、中国人の日本語教師も大学を卒業さえすれば、日本語教師になることができたようです。しかし、現在では中国人の日本語教師に関して、大学院の博士課程の修了と、日本への留学経験が求められるようになってきました。中国の学生にとっても、公務員は人気の職業であり、公立高校や大学の講師になるための競争は激しさを増しています。

(2) 中国の学生の就活事情

足元、中国国内は大学卒業生が急増する中、企業からの求人に迫りついておらず、「就職氷河期」と呼ばれる状況が続いています。その中でも、中国地場企業においては、会社見学、大学との提携、各種就活イベント等の出展等、多額の予算を計上し、優秀な学生を確

日本語学習者上位10か国・地域

2024年度順位	国・地域名	2024年度学習者数(人)
1	中国	1,019,197
2	インドネシア	732,914
3	韓国	555,396

教師数：地域別増減及び上位10か国

2024年度順位	国・地域名	2024年度学習者数(人)
1	中国	21,743
2	韓国	14,127
3	インドネシア	7,614

※『2024年度 海外日本語教育機関調査』を基に作成

保すべく、積極的なアプローチを行っています。

IT が浸透している中国では、オンラインで就職活動を行うことが定着しており、スマートフォンのアプリでの情報収集を中心に就職活動を進めることが最も主流ですが、地場企業は SNS を通じた効果的な発信等、積極的に実施しており、日系企業の求人情報は、中国国内の日本語学習者にうまくリーチできていないようです。

中国の就活生にとって、日系企業の印象として、賃金は高くないものの、雇用条件が適切に守られる等、安心して働ける企業とのイメージがあります。山口銀行杯日本語弁論大会に参加した大学生からも、「日系企業の採用担当者と対話する機会が欲しい。」「日系企業へのインターンシップがあれば、ぜひ参加してみたい。」「日系企業だけの纏まった情報をもっと欲しい。」等の意欲的な声を耳にしました。優秀な日本語学習者は卒業後も日本語を強みとして仕事をしたいと意欲的であることから、学生へのアプローチ手法においては、大いに改善の余地がある状況です。

4. 終わりに

先日、青島市で開催された日系企業の交流イベントを訪問しました。各社の展示ブースを見て回っていたところ、あるブースで中国の方に、非常に流暢な日本語で話しかけられ、思わず驚きました。なぜここまで日本語が堪能なのかを伺いました。すると、「大学生の時、山口銀行が主催する日本語弁論大会に出場したことがあります。優勝はできませんでしたが、その経験がとても役に立っています。」と話してくれました。日本語弁論大会に参加した学生が、その後中国国内や日本国内のさまざまな現場で、日系企業や日本人の活動を支えていることを知り、本大会が果たしている役割の大きさをあらためて実感しました。本大会に関わる者として、誇らしい気持ちにもなりました。

本大会参加者が、日本と中国のお互いの価値観を認め合い、日中友好の懸け橋となることを願っています。山口銀行では、日中交流人材が育つ環境づくりを通じて日本と中国の友好親善に寄与していきます。



(山口銀行青島支店 江目 敬祐)

【参考文献】

『2024 年度 海外日本語教育機関調査』

https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/information/dl/result_overview.pdf